



## 岐阜県商店街振興組合連合会 第50回通常総会

平成30年5月28日(月) 午後1時30分より、OKBふれあい会館14階「展望レセプションルーム」(岐阜市藪田南5-14-53)に於いて、岐阜県商店街振興組合連合会第50回通常総会を開催しました。

日比野 豊理事長を議長に議案審議を行い、平成29年度事業報告では、昨年8月21日に「岐阜県まちゼミフォーラム in ぎふ」を県下から商店街関係者、行政、商工会議所、商工会等76名が参加し開催したこと。



▲第50回通常総会の様子

空き店舗対策として「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」がロイヤルビルの一部を借り上げ店舗改修を行い、昨年10月にリニューアルオープンし、それまで5店舗の営業に新規に7店舗が入居し賑わい創出面で明るい兆しが見えてきていること。

人材育成事業として、本年3月に青年部・女性部に岐阜市へ集まっただき、リーダー育成についての勉強会を開催したこと等を報告し

ました。

平成30年度事業計画では、引き続き、若手後継者や女性の人材育成事業や商店街と若い世代とのコミュニケーションを図る支援、創立50周年記念事業を開催すること等を説明し全会一致で承認されました。

創立50周年記念事業は、平成30年10月18日(木)、ホテルグランヴェール岐山で開催致します。また、「岐阜県まちゼミフォーラム in たかやま」を平成30年11月8日(木)、高山市民文化会館で開催しますので、多数のご参加をお願い申し上げます。

ご来賓として、中部経済産業局 産業部次長 瀬賀和也様、岐阜県 商工労働部次長 國島英樹様、当連合会 顧問弁護士 川島和男様の3名からご祝辞をいただきました。

大塚康芳副理事長が閉会の挨拶をし、午後2時30分無事終了致しました。



▲第50回通常総会の様子

# 目指すはふるさと自慢ができる街！ 第30回恵那まちなか市

◆主催：恵那まちなか市実行委員会 ◆協賛：株式会社バロー

## ■出店・企画盛り沢山の賑やかなイベント

山紫水明の豊かな自然に恵まれた地域である恵那市。初夏の恵那は新緑の山々が美しく、街を歩いているだけで爽快な気分になることができます。5月19日(土)には、今回で第30回を数える恵那まちなか市が恵那銀座商店街を中心に開かれ、大勢の人で賑わいを見せました。



▲賑わう恵那まちなか市

恵那まちなか市は地元の出店者を中心に年4回開かれているイベントで、そこでの出店者が将来的に商店街の空き店舗に入って起業することを通じて、商店街に賑わいを生み出すことを目的としています。また、恵那まちなか市は恵那市戦略的パートナーシップ協定に基づいた事業となっており、その協定には恵那市商店街連合会の他、恵那市が創業の地である株式会社バローも参加しています。そして、恵那の街中の賑わいを創出しようと、お互いが協力して恵那まちなか市を盛り上げています。

イベント当日はフリーマーケットやスタンプラリー、五平餅作り体験など多くの企画が目白押し。商店街ボウリングと題したゲームでは、商店街の路上に専用レーンを作り、本物のボウリングの玉を投げてストライクやスペアを狙う多くの親子連れの姿が見られ、本格的なボウリングを楽しんでいました。



▲本格的な商店街ボウリング

また、恵那市と中津川市の女性を中心とした団体「BOND(ボンド)」により、21ものブースが立ち並んだBONDフェスが恵那まちなか市にて開催。それとは別に、恵那市内在住で起業して間もない女性・これから起業を目指す女性を対象にした出店体験ブースも設けられ、女性ならではの明るい接客でイベントに花を添えていました。



▲BONDフェスのブース

## ■ふるさと自慢ができる街になりたい

恵那まちなか市では子供たちの姿が大変多く見られます。これは当日のボランティアとして多くの中学生が参加していたことや、子供向けのおもちゃ屋さんが出店していたこと、また子

供が好みそうな体験型の企画を数多く用意したことなど、イベント全体として多くの子供たちに参加してもらえるよう一貫した設計がなされていたことが1つの要因だと考えられます。そのため、来街者も運営スタッフも子供たちの若々しさに溢れていました。

恵那市商店街連合会の大塚康芳会長は、この恵那まちなか市に関連して次のように話します。

「今年の恵那まちなか市のテーマは『体験型イベントを目指す!』です。子供たちに夢を与えたり、古き良き時代のものに触れてもらったりなど、普段味わえない体験ができるようなイベントにしたいと考えています。それを実現するために、恵那まちなか市は地域の色々な団体が自分たちの作品を発表したり、子供たちがボランティアとして参加したり、あるいは親子連れがお店を体験したりする場として、いわば接着剤の役割を果たしているんです。

私たちの最終的な目的は、『ふるさと自慢ができる街になりたい』ということです。子供たちが大きくなった時にふるさと自慢ができるような商店街や街になることができれば、個々の商店も必ず生き残っていけると思います。」

大塚会長のお話は情熱的で、いつも郷土愛に溢れています。そうした会長の思いは、必ずや子供たちに伝わっていることでしょう。それは、今回の恵那まちなか市の最後を締めくくるもち投げからも感じられる気がします。

もち投げの開始時刻を迎えると、銀座2丁目駐車場の壇上から大塚会長や中学生の子供たち

が勢いよくもちを投げ上げます。会場に集まった子供たちは、そのもちを何とか手にしようと夢中でもちの行く先を目で追いかけて、大きく手を伸ばします。そうして子供たちが手にしたもちには、“恵那の街を自慢に思っている”という大塚会長の熱い思いが込められているように思えてなりません。



▲多くの子供たちが参加したもち投げ

#### ■NHKの連続テレビ小説の舞台として

恵那市と言えば、現在NHKで放送されている朝の連続テレビ小説「半分、青い。」のロケ地である岩村町を有する市です。その岩村町では「半分、青い。」の特需で既存商店に注文が殺到しており、お店によっては10倍～100倍もの注文量になっていると大塚会長は話します。また、岩村町以外の市内の商店でも売上増といった良い波及効果が生じていることから、恵那市では「半分、青い。」を通じた街の活性化が今まさに起こりつつある状態と言えるでしょう。

今後のドラマの進展とともに大きな盛り上がりを見せていく恵那市に、今年是全国から注目が集まりそうです。

## 暖かなおもてなしで大人気の演奏会イベント TOGETHER21 花・花・花フェア

◆主催：TOGETHER21・関市本町通商店街連合会

#### ■特典いっぱいの大人気イベント

5月6日(日)、ゴールデンウィークの最終日。

天候にも恵まれ、絶好の行楽日和となったこの日、関市本町通商店街のおかみさん会「TOGETHER21」が主催する「花・花・花フェア」

が関商工会議所 2 F ホールで盛大に開催されました。

花・花・花フェアとは、様々なジャンルの方をお招きして行われる演奏会がメインのイベントで、今年で 21 回目を迎えます。今回は「アジア二弦奏の響き」と題して、中村ゆみこさん（二胡）、杉浦充さん（箏）、さきはらなおみさん（歌、ピアノ）という 3 名が出演者として招待され、素敵な合奏を披露しました。また、このイベントの前売券は 1,500 円ながらも、130 席を用意した関商工会議所 2 F ホールは早い時期に満席となったそうです。



▲満席となった会場

この花・花・花フェアについて、TOGETHER 21 の高井委員長にお話をお伺いしました。

「このイベントも最初の頃はチケットを売るのも大変でしたが、最近はありがたいことにお申し込みをお断りするのが大変になってきています。長い間イベントを続けていて、そろそろお客様が飽きるのではないかと思ってもいるのですが、この頃は大勢のお客様をお断りしなければいけないものですから、本当に人気が出てきたと感じています。」

このように大変人気のイベントとなった花・花・花フェア。その秘訣はいったい何なのでしょう。実はこのイベント、演奏会だけで終わりではないのです。

演奏会の開始前には、参加者全員にコーヒー 1 杯とショートケーキが配られ、ゆっくりと

ティータイムを楽しむことができます。しかも、コーヒーが注がれたコップはプレゼントとしてお持ち帰りが可能となっています。そして、特典はまだまだこれだけではありません。

花・花・花フェアの名の通り、なんと鮮やかなカーネーションの鉢植えがもれなく 1 鉢プレゼントされるんです！さらにさらにお楽しみ抽選会として、62 名もの来場者にバッグや傘などといった商店街からの様々な商品が当たるチャンスまで付いてきます。



▲お楽しみ抽選会

そうした数々の特典を受け取った後、いよいよ花・花・花フェアのメインイベントである演奏会が始まります。今年は葉加瀬太郎の「情熱大陸」や喜納昌吉の「島唄」の他、来場者の皆さんと共に歌う「うたごえコーナー」など、全部で 10 曲を超える楽曲が約 2 時間に亘って披露され、会場は大盛り上がり。最後の楽曲を演奏し終えた後にはアンコールが沸き起こるほどでした。



▲会場を盛り上げた出演者の皆さん

## ■人気の秘訣は、“おもてなし”

さて、改めて花・花・花フェアが人気である秘訣を考えてみます。

真っ先に浮かぶのが、1,500円という前売券の販売価格以上の価値を来場者に与えていることでしょう。演奏会に加えて、これだけの特典が付いて1,500円という価格設定は本当に驚きです。実際に、関市本町通商店街連合会の深川会長からは、もう少し価格を上げてもいいのではないかと提案が来ているほどだそうです。

そんな赤字覚悟の価格設定が実現できるのも、来場者に喜んでいただきたいという“おもてなし”のなせる技だと高井委員長は話します。そして、このおもてなしはこうした価格設定だけに見られるものではありません。

実際、イベント当日にはTOGETHER 21の多数の関係者が会場運営に携わり、来場者一人一人に声を掛けたり、座席まで誘導したりと丁寧な接客をしていました。また、TOGETHER 21はおかみさん会ということで、女性ならではの暖かな心配りが随所で見られたのです。

そして極めつけには、全ての曲を演奏し終えた出演者の皆さんに、TOGETHER 21からカーネーションなどの記念品がプレゼントされる場面も。



▲演奏会終了後に記念品のプレゼント

こうした幾重にも巨るおもてなしが、来場者の心をつかみ、花・花・花フェアを大人気のイベントに成長させた本当の秘訣だと感じます。私自身、会場で取材を続けている間、暖かな気持ちで心が満たされていることを実感しました。

関の商店街のおかみさんによるおもてなしが存分に楽しめる花・花・花フェア。これから益々人気が出てくるのは必然と言えそうです。

## 羽島名物「みそぎ団子」を今に伝える老舗の名店 兎月園（商店街振興組合羽島市商店街連盟）

### ■「みそぎ団子」で有名な老舗和菓子店

名鉄竹鼻線羽島市役所前駅から徒歩5分ほどのところに位置する羽島市の竹鼻商店街。全長約1kmに渡るこの商店街は、岐阜の柳ヶ瀬と並ぶ、映画館がありネオン輝く繁華街として遠方より多くの人でにぎわっていたと伝えられています。ここで最近マスコミに取り上げられ、市外・県外からのお客さんも多くなっている有名和菓子店があります。それが今回ご紹介する「兎月園（とげつえん）」。

取材当日は3代目の廣瀬八久（はつひさ）さんに対応していただきまし

た。

まもなく創業100周年を迎えようとしている兎月園。この老舗和菓子店の代名詞と言えるのが「みそぎ団子」です。これは、米粉のお団子の中にあずきのこし餡を入れて2



▲3代目の廣瀬八久さん

個串に刺し、味噌を塗って焼いたお団子のことで、浴衣姿でこのお団子をほおぼることは竹鼻の夏の風物詩の1つとなっています。

2010年には、みそぎ団子の愛好家で作る「みそぎ団子協会」が設立され、地元のみそぎ団子販売店を巡るツアーが毎年組まれるようになりました。また、2015年には東海テレビ「スタイルプラス」で取り上げられるなど、このお団子に対するマスコミからの注目度も年々高まってきています。



▲注目が高まるみそぎ団子

こうして、羽島の名物として定着してきているみそぎ団子。「このお団子がここまで広まるまで、当店は一生懸命やってきました。」と廣瀬さんは話します。というのも、このお団子は兎月園が所在する竹鼻地区が発祥の地。そんな歴史のある地で長年みそぎ団子を作り続けてきた兎月園には、八久さんの先代が当時「みそつけだんご」という名で販売していたお団子を「みそぎ団子」と命名した、という由来もあるほどなんです。

羽島市竹鼻町2631-1

☎058-391-2562

営業時間：8：00～19：00

定休日：火曜日

竹鼻地区ではみそぎ団子を取り扱っているお店も次第に減ってきているといます。そんな中においては、兎月園は由緒正しいみそぎ団子が味わえる貴重なお店と言えるでしょう。

※兎月園のみそぎ団子は、今年は4月14日から8月のお盆過ぎまでの限定販売です。

### ■ご家族の支えが店内の随所に

兎月園では、八久さんのご家族もしっかりとお店を支えています。八久さんの奥さんは商品のネーミングを考案。また、娘さんは大福のパッケージに貼る可愛いシールを作成しています。更に、息子さんは4代目として八久さんをしっかりサポートするなど、ご家族の創意工夫やバックアップが今の兎月園の随所に現れています。

そんな暖かな雰囲気を持つ兎月園。古き良き商店街の面影をしっかりと今に伝えていきます。



▲店内の様子

【取材・記事 中小企業診断士 加藤正浩】

### ■事務局より

梅雨入りし、蒸し暑い日々が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今年度は、当連合会創立50周年記念事業、高山市でのまちゼミフォーラム、若手後継者・女性部の勉強会等の事業があります。皆様方の多数の御参加をお願い申し上げます。

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。